

第一回 諸橋轍次記念 漢字文化理解力検定 解答・解説

【問題Ⅰ】 (小計48点)

- 問1 【読み書き】 ① || オオ ② || 鱗 ③ || 優 ④ || 頗 ⑤ || 懇意 ⑥ || 遺愛 ⑦ || 聳 ※「從」を「從」としたものは1点。(各2点)
- 問2 【同訓異字】 緑／碧(各2点)
- 問3 【部首と画数】 (1) || 干(部) ※「かん」「いちじゅう」などの名称で答えた場合も可。(2) || 十(画)(各2点)
- 問4 【漢字の意味】 イ(2点)
- 問5 【熟語の意味】 エ(2点)

問6 【複数の音読み】 ゲン || 嚴肅、威嚴、嚴禁、嚴重など。ゴン || 莊嚴、華嚴など。(各2点)

※両方で読める熟語を答えた場合は、受検者に有利なようにカウントする。

問7 【旧字体】 經 ※糸へんの形は問わない。(2点)

問8 【漢字の音読み】 難(2点)

問9 【同じ構成要素をもつ漢字】 禱(2点)

問10 【漢文の書名】 論語(2点)

問11 【漢字の意味と熟語】 ア(2点)

問12 【漢字の訓読み】 あと／のち／うしろ ※「しりえ」なども可。(順不同・完答2点)

問13 【故事成語と中国史】 (1) || ウ(2点) (2) || エ(2点)

問14 【漢字の擬態語】 ア(2点)

■解説 問5 「渺茫」は、はるかに広がって見えない様子を表す。問8 「災」「禍」などでは、音読みが合わない。問9 「禱」は、「たすき」と訓読みする漢字。

問11 「然る後に」は、「そうなった後に」という意味。「必然」は「必ずそうなる」こと。ほかの三つは、「○○である様子」という意味。問13 (2) 康熙帝は清、洪武帝

は明、孝武帝は東晋・北魏などの皇帝。問14 「蕭々」は、さみしい音を立てる様子、「峨々」は、山などが険しい様子、「赫々」は、輝かしい様子を表す。

【問題Ⅱ】 (小計20点)

問1 【誤字訂正】 ① || 影も形も ② || 活を入れて ③ || 完璧 ④ || 厚顔無恥 ⑤ || 解熱剤(各2点)

問2 【漢文から出た年齢の異称】 イ ↓ オ ↓ エ ↓ ア ↓ ウ(完答6点)

問3 【故事成語と人物】 エ・キ(各2点)

■解説 問2 ア「還暦」は、数え年六十一歳をいう。イ「志学」は、数え年十五歳をいう。ウ「古稀(古希)」は、数え年で七十歳をいう。(杜甫「曲江」詩)エ

「不惑」は、数え年四十歳をいう。『論語』オ「弱冠」は、男子の数え年二十歳をいう。『礼記』問3 エ「三遷の教え」は、孟子の母が息子の教育のために三か所に住

まいを移したという故事。『列女伝』キ「推敲」は、唐の詩人賈島が詩を作り、「推」と「敲」のどちらを使うべきかと苦しんでいたところ、韓愈が「敲」の字がよい」と

助言したという故事。『唐詩紀事』

【問題Ⅲ】 (小計8点)

問1 【国字】 凧(2点)

問2 【国字】 (1) || (腺) せん (2) || 汗腺／臭腺など(各2点)

問3 【国訓】 (揅) くすぐる ※「こそぐる」も可。(2点)

■解説 問1 共通語では「たこ」だが、各地の方言で読み慣わされている。問2 「腺」は、江戸時代に蘭学者が作った国字。中国や韓国にも伝播したが、出自からは国

字といえる。問3 「揅」は、中国では「打つ」「攻める」の意味だが、日本では会意文字として「くすぐる」という国訓をもたせた。

【問題Ⅳ】 (小計14点)

問1 【六書】 A || ク B || カ C || オ D || キ E || コ(各1点)

問2 【読み書き・書名】 ① || りくしよ ② || げいもんし(各2点)

問3 【六書】 a || ウ b || イ c || ア d || ウ e || エ(各1点)

■解説 問1 六書の順序は『漢書』藝文志、名称は『説文解字』所掲にしたがうのが一般的である。問2 「六書」は「りくしよ」、「藝文志」は「げいもんし」と読むの

が古くからのしきたりとされている。問3 『説文解字』序に見える六書の具体的な挙例に基づいている。

【問題Ⅴ】 (小計10点)

問1 【諸橋轍次記念館】 (1) || 西遊記(2点) (2) || 孫悟空(2点)

問2 【諸橋轍次記念館】 (1) || エ(2点) (2) || ウ(2点)

問3 【大漢和辞典】 ウ(2点)

■解説 問2 聖徳太子が制定したという『十七条憲法』に、「以和為貴」という一節がある。問3 これに索引(第十三巻)、語彙索引(第十四巻)、補巻(第十五巻)が加わる。